

TTC 提案山行実施記録表

2015年12月22日 SM

山行名	表丹沢 鍋割山 [1273m 神奈川県]				
実施日	2015年12月19日(土) 日帰り 電車、タクシー				
天候／参加人員	天候：快晴 レベル：★★☆ 参加者：13名（男7名／女6名）				
パーティスタッフ	CL/計画：	SL：	会計：	救護：	カラ：スタッフ名削除
参加メンバー	参加者氏名削除				
費用 (1人当たり) <u>￥1356-</u>	交通費： ①〈電車〉小田急/本厚木駅⇒渋沢駅：￥556- (@ICカード) ②〈タクシ一代〉渋沢駅⇒県民の森：￥600- (￥600×13人=￥7770*+30円**) ③〈バス〉大倉バス停⇒渋沢駅：￥200- (*3台合計で￥7770=￥2800(5人乗り)+￥2530(4人)+￥2440(4人)) **カンパ金：￥30				
本厚木起点	-	歩行時間	休憩時間	行動時間	
所要時間	ガイドブック	6時間05分	-	-	
	計画	6時間40分	1時間50分	8時間30分	
	実行*	6時間12分	1時間50分	8時間02分	

実行コースタイム記録

◆12/19(累積標高差:登り約1816m/下り1944m、歩行距離:約14.4km 但し塔ノ岳往復を含む数値)

タクシー

渋沢駅==表丹沢県民の森・二俣・ミズヒ大滝見学・後沢乗越・鍋割山(昼食)・二俣分岐・金冷し...
 7:33 7:48/8:05 08:35 08:55/9:25 9:52/55 11:13/58 12:33 13:00/13:03

塔ノ岳・金冷し・花立山荘・堀山の家・駒止茶屋・見晴茶屋・観音茶屋・大倉バス停==渋沢駅
13:19/25 13:42 13:54/14:00 14:30/35 14:53/15:00 15:19 16:37/42 16:07/18 16:32

コースの概要、特記事項、反省事項等

[コース概要]

前々日の降雪の名残が鍋割山稜北斜面にわずかに斑状に残り、その近辺の登山道の日蔭部分は部分的にぬかるみがあった。それ以外は概して全行程が安全な歩行のできる登山道であった。

計画では県民の森スタート→鍋割山→金冷シ→大倉尾根→大倉ゴールであったが、参加メンバーの歩行状況/快晴/気温/風速などから総合的に判断して、金冷シからは10人、3人の2チームに分かれ、10人チームは希望する金冷シ↔塔ノ岳往復を追加する山行とした。S Lをリーダーに3人チームは当初の計画通りのコースをたどって大倉尾根を下った。

「特記事項」

- 1 深沢駅から登山口までのタクシーは事前予約（3台。内1台は乗客定員5人）したため、定刻通り一団となってスムーズに出発/到着できた（通常のタクシー乗り場では、待ち台数の少なさからバラバラの出発/到着となる状況であった）。
 - 2 ミズヒ大滝見学は9人が参加した（他の4人は残留休憩）。数名ずつに分散した行動だったことと、滝での記念写真に少し時間をとったため、往復+小休止で30分程度の滞留時間となった。滝に至る道の入り口がわかりにくく、更に数か所に倒木が横たわり見通しの悪い森の落ち葉の中を進む状態だったこと等も時間を消費した要因と思われる。
 - 3 鍋割山への登りは、気温が低い中（頂上で1℃との予報）での行動だったため、とにかく汗のコントロールに細心の注意をはらい、息を上げ過ぎないよう小まめに小休止をとり、また上着の脱ぎ着にも注意してもらいながら登り切ることができた。
 - 4 鍋割山荘での鍋焼きうどんを楽しみにしているメンバー5名を代表しS.L.に途中から離脱してもらい、事前注文の為に単独でスピードを上げて小屋を目指してもらった。チーム全体が到着したその時にタイミングよく、うどん5人分が出来上がっており13人全員揃って昼食をとることができた。

5 鍋割山頂では相模湾（伊豆半島、真鶴半島、初島、大島など全て）を一望でき、また目を転ずると冠雪し雲をたなびかせた富士山、更にその右側はるか遠方には南アの白い山並みが青空にくっきりと浮かび上がり、まるでグラビア写真を見る思いであった。

また金冷シに至る鍋割山稜でも、見え隠れする白い富士山をしばしば振り返りながら歩を進めることができた。

6 金冷シでは塔ヶ岳登頂組と下山組との分けた行動をとることで、各自の体力レベルに応じた山行がほぼ安全にできた。また、チーム合流場所である大倉バス停（ゴール地点）には、結果的にほぼ同じ時刻に到着でき、両チームとも無駄な時間のない山行ができた。

7 澄みわたる大気のおかげで、塔ノ岳山頂からは横浜みなとみらい地区のビル群、新宿副都心のビル群、スカイツリー、埼玉方面まで見通せ、鍋割山山頂に劣らぬ感動を味わうことができた。

8 午後の大倉尾根下山では汗冷えしないように、計画した休憩場所/休憩時間にこだわらずにメンバーの状況を見ながら、臨機応変に対応した。

=上記4および6は、経験豊富なS Lの積極的な対応の申し出のお蔭で実施できました。今回の山行を充実し参加者の満足度をアップすることに多大な貢献をしていただき感謝いたします。=

[反省事項]

1 CLとして参加者の疲労状況の把握が甘く、昼食後は歩行スピードが速くなる傾向にあり、度々スピードダウンの要求を受けた。初CL体験の山行だったとはいえ、CLとして更なる気配りが必要である事を痛感した。ご迷惑をおかけした。

2 塔ノ岳からの10人（塔ヶ岳登頂組）での下山時、班行動を徹底せず一団となっての下山であったため、CLとして最後尾の状況把握が不十分の区間もあった。最低でもどなたかに代わりのS Lを依頼し最後尾を固めるべきであった。

—以上—